

評価軸①-1 組織体制	
項目	評価対象年度 令和6年度 現在の状況
計画実現のための体制	<div><input type="checkbox"/>実施済</div> <div><input checked="" type="checkbox"/>実施中</div> <div><input type="checkbox"/>未着手</div>
計画に記載している内容	歴史まちづくり事業は、歴史、文化、観光、建設、都市整備等の多岐に渡る分野に関連するため、本市では「歴史まちづくり連絡調整会議」を設置し、関係課(事業担当部課)間の横断的な連絡調整を行うものとする。
定性的・定量的評価（自由記述）※定量的評価は可能な範囲で	
建築住宅課・文化課等関係課から構成される「歴史まちづくり連絡調整会議」を随時開催し、関係課間の連絡調整、事業施工に関する打合せを行った。 恵那市歴史的風致維持向上計画協議会を令和6年5月21日及び令和7年3月13日に開催し、進捗評価について意見聴取及び協議を行った。	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
<div><input checked="" type="checkbox"/>計画どおり進捗している</div> <div><input type="checkbox"/>計画どおり進捗していない</div>	
状況を示す写真や資料等	
<div><div><div>恵那市歴史まちづくり連絡調整会議</div><div><div>事務局</div><div>・建設部 建築住宅課 ・教育委員会事務局 文化課</div></div><div>連絡調整</div><div><div>関係課</div><div>・まちづくり企画部 企画課 ・まちづくり企画部 地域振興課 ・商工観光部 観光交流課 ・農林部 農政課 ・建設部 建設課 ・各振興事務所</div></div><div>事業の推進</div></div><div><div>連絡調整</div><div>岐阜県</div><div>・県土整備部 ・都市建築部 ・環境生活部文化伝承課</div></div><div><div>連絡調整</div><div>恵那市歴史的風致維持向上計画協議会</div></div><div><div>意見照会及び報告</div><div>外部関係機関</div><div>・恵那市文化財保護審議会 ・恵那市伝統的建造物群保存地区保存審議会</div></div></div> <div><div>■恵那市歴史的風致維持向上計画協議会</div><div><div>○第26回：令和6年5月21日開催</div><div>審議事項：令和6年度進捗評価について</div><div>○第27回：令和7年3月13日開催</div><div>審議事項：中間評価について</div></div></div>	

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
重要伝統的建造物群保存地区での取り組み			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
計画に記載 している内 容	重要伝統的建造物群保存地区に選定(平成10年4月)されている岩村町の商家町について、歴史資源として積極的に保存や活用を行ってきた。 岩村町全体のまちづくりに関わる組織である「城下町ホットいわむら」は、本町通りにおけるさまざまなイベントの企画・実施を行っている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
保存地区内の建物で現状変更を行うときには、保存計画に定める方針・基準に従い、岩村城下町まちなみ保存事業を活用しながら実施している。また必要に応じて文化庁及び県環境生活部文化伝承課の指導、助言を受けている。 【事業費:10,872,060円 国庫補助額:5,436,000円(3件分) 工期:4月から3月まで】			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			



山田家



評価軸②-2

重点区域における良好な景観を形成する施策

評価対象年度		令和6年度																				
項目		現在の状況																				
景観形成に関する取組について		<div><input type="checkbox"/>実施済</div> <div><input checked="" type="checkbox"/>実施中</div> <div><input type="checkbox"/>未着手</div>																				
計画に記載している内容	景観法に基づく景観計画の策定に向けて、平成20年度より庁内関係部課、学識経験者及び地域住民等で構成する景観計画策定委員会にて恵那市全域の方針や規制の検討を行うとともに、平成21年度からは、地域住民等で構成する地域ワークショップの開催等を通じて地域毎の景観の形成に関する基本方針や行為の制限について併せて検討を行っている。																					
定性的・定量的評価（自由記述）※定量的評価は可能な範囲で																						
<p>恵那市景観条例、恵那市景観条例施行規則は平成24年4月1日に施行済みである。景観計画区域内行為の届出に関するこの規定は、平成24年10月1日から施行している。</p> <p>令和6年度は、45件の事前協議と、26件の景観計画区域内行為の届出があった。（令和7年3月31日現在）これらの規制誘導により、歴史的風致を維持することができている。</p>																						
進捗状況	※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）																				
<div><input checked="" type="checkbox"/>計画どおり進捗している</div> <div><input type="checkbox"/>計画どおり進捗していない</div>																						
状況を示す写真や資料等																						
<div>景観計画区域内の行為の制限</div> <div><div><div>①建築物の建築等／工作物の建設等</div><table><tbody><tr><td>配置</td><td>➤ 主要な眺望点からの山並みや自然景観への眺望を阻害しない配置とする。</td></tr><tr><td>形態・意匠</td><td>➤ 周囲の自然景観や集落景観、町並み、田園等と調和するような配置・形態意匠とする。 ➤ 壁面の規模が大きな建築物・工作物は、威圧感や圧迫感を低減させるよう形態意匠を工夫する。また大面積に具象な絵柄や必然性のないデザイン、華美な装飾を施さないようにする。</td></tr><tr><td>材質</td><td>➤ 光沢のある材料や反射光の生じる素材を大部分にわたって使用することは避ける。</td></tr><tr><td>高さ</td><td>➤ 建築物および工作物の高さの制限は右のとおりとする。 (ただし市長が認めるものはこの限りでない) ➤ ただし上記の基準内の高さであっても、主要な眺望点からの山並みや自然景観への眺望を阻害しないようにする。<div>用途地域内：25m以下 用途地域外：15m以下</div></td></tr><tr><td>色彩</td><td>➤ 素材の持つ自然色を生かし、彩度、明度の高い色彩を基調色として用いないようにする。また農村地域においては、周辺の農地や自然景観に調和した色調とする。 ➤ 外観の色彩は右のとおりとする。ただし着色していない木材、土壁、ガラス等の材料によって仕上げられる部分の色彩、見付面積の1／10未満の範囲内で外観のアクセント色として着色される部分の色彩についてはこの限りでない。 ➤ 使用する色数はできる限り少なくし、複数の色を使用する場合は、色の三属性(色相、明度、彩度)の対比が強くないよう配慮する。<div>彩度： R・Y : 4.0以下 Y R : 6.0以下 G Y ~ R P : 2.0以下 明度：制限なし</div></td></tr></tbody></table></div><div><div>②太陽光発電設備</div><table><tbody><tr><td>配置・形態・意匠</td><td>➤ 文化財、別荘地、野外レクリエーション地等との近接を避けること。もしくは、樹木等による緩衝帯を設けること。 ➤ 太陽光パネルの材質は、低反射性のものを使用すること。 ➤ 太陽光パネルの模様が目立たないものを使用すること。</td></tr><tr><td>高さ</td><td>➤ 15m未満（斜面に設置する場合、最も低い位置に設置する太陽光パネル及び架台を含む最下部から、最も高い位置に設置する太陽光パネル及び架台を含む最頂部までを高さとする）</td></tr><tr><td>色彩</td><td>➤ 太陽光パネルの色彩は、周辺の景観と調和した色彩を使用し、黒色、濃紺色とし、低明度かつ低彩度の目立たないものを使用すること。 ➤ 主要な眺望点や交通量の多い道路等から容易に望見できる傾斜面に設置する場合は、太陽光パネルのフレームは、できるだけパネル部分と同系統の色とし、低反射のものを使用する等の工夫を施すものとする。 ➤ 附属設備（パワーコンディショナ、キュービクル等）は、周辺景観と調和した色彩とし、高明度色を避け、かつ低彩度色で統一すること。</td></tr><tr><td>緑化目隠し</td><td>➤ 樹木の伐採は、必要最小限とすること。 ➤ 交通量の多い道路等から見える場所や隣接して民家等集落がある場合は、太陽光発電設備の目隠しとなるよう、境界付近に植栽もしくは塀等を設置すること。 ➤ 目隠しとなる植栽及び塀を施す場合は周辺との調和、連続性に配慮したものとする。</td></tr><tr><td>維持管理</td><td>➤ 太陽光発電設備及び敷地内は、定期的に保守点検を行うなど適切に維持管理し、時間的経過に伴う景観悪化を防ぐ等維持管理に努めること。 ➤ 事業終了後には、適切に撤去及び処分を行うこと。</td></tr></tbody></table></div><div><div>③開発行為／土石の採取等における土地の形質の変更</div><div>➤ 造成は必要最小限とし、既存の地形・樹木などの自然条件を活かすことで、景観上の違和感を生じさせないようにする。 ➤ 現況の地形を可能な限り活かし、長大なり面や擁壁が生じないようにする。長大な擁壁やのり面が生じる場合は、前面を緑化するなど周囲の景観と馴染ませるよう努める。 ➤ 擁壁については高さを極力抑える。 ➤ 土石の採取等については、景観体験軸に設定した道路・鉄道等から容易に望見できないよう掘削位置及び方法を工夫する。 ➤ 土石の採取後は、地域の自然植生と調和した緑化を行い、自然環境及び景観の復元に努める。</div></div><div><div>④屋外における土砂・廃棄物・再生資源その他の物件の堆積</div><div>➤ 景観体験軸に設定した道路・鉄道等から望見できる範囲においては、長期に渡り土砂、廃棄物、再生資源等の堆積は行わない。 ➤ 堆積を行う場合は、景観体験軸に設定した道路・鉄道等から堆積物が見えないよう配置を工夫する。それが困難な場合は、植栽や塀を設ける、積み上げ高さを低く抑える等の配慮を行う。</div></div></div>			配置	➤ 主要な眺望点からの山並みや自然景観への眺望を阻害しない配置とする。	形態・意匠	➤ 周囲の自然景観や集落景観、町並み、田園等と調和するような配置・形態意匠とする。 ➤ 壁面の規模が大きな建築物・工作物は、威圧感や圧迫感を低減させるよう形態意匠を工夫する。また大面積に具象な絵柄や必然性のないデザイン、華美な装飾を施さないようにする。	材質	➤ 光沢のある材料や反射光の生じる素材を大部分にわたって使用することは避ける。	高さ	➤ 建築物および工作物の高さの制限は右のとおりとする。 (ただし市長が認めるものはこの限りでない) ➤ ただし上記の基準内の高さであっても、主要な眺望点からの山並みや自然景観への眺望を阻害しないようにする。 <div>用途地域内：25m以下 用途地域外：15m以下</div>	色彩	➤ 素材の持つ自然色を生かし、彩度、明度の高い色彩を基調色として用いないようにする。また農村地域においては、周辺の農地や自然景観に調和した色調とする。 ➤ 外観の色彩は右のとおりとする。ただし着色していない木材、土壁、ガラス等の材料によって仕上げられる部分の色彩、見付面積の1／10未満の範囲内で外観のアクセント色として着色される部分の色彩についてはこの限りでない。 ➤ 使用する色数はできる限り少なくし、複数の色を使用する場合は、色の三属性(色相、明度、彩度)の対比が強くないよう配慮する。 <div>彩度： R・Y : 4.0以下 Y R : 6.0以下 G Y ~ R P : 2.0以下 明度：制限なし</div>	配置・形態・意匠	➤ 文化財、別荘地、野外レクリエーション地等との近接を避けること。もしくは、樹木等による緩衝帯を設けること。 ➤ 太陽光パネルの材質は、低反射性のものを使用すること。 ➤ 太陽光パネルの模様が目立たないものを使用すること。	高さ	➤ 15m未満（斜面に設置する場合、最も低い位置に設置する太陽光パネル及び架台を含む最下部から、最も高い位置に設置する太陽光パネル及び架台を含む最頂部までを高さとする）	色彩	➤ 太陽光パネルの色彩は、周辺の景観と調和した色彩を使用し、黒色、濃紺色とし、低明度かつ低彩度の目立たないものを使用すること。 ➤ 主要な眺望点や交通量の多い道路等から容易に望見できる傾斜面に設置する場合は、太陽光パネルのフレームは、できるだけパネル部分と同系統の色とし、低反射のものを使用する等の工夫を施すものとする。 ➤ 附属設備（パワーコンディショナ、キュービクル等）は、周辺景観と調和した色彩とし、高明度色を避け、かつ低彩度色で統一すること。	緑化目隠し	➤ 樹木の伐採は、必要最小限とすること。 ➤ 交通量の多い道路等から見える場所や隣接して民家等集落がある場合は、太陽光発電設備の目隠しとなるよう、境界付近に植栽もしくは塀等を設置すること。 ➤ 目隠しとなる植栽及び塀を施す場合は周辺との調和、連続性に配慮したものとする。	維持管理	➤ 太陽光発電設備及び敷地内は、定期的に保守点検を行うなど適切に維持管理し、時間的経過に伴う景観悪化を防ぐ等維持管理に努めること。 ➤ 事業終了後には、適切に撤去及び処分を行うこと。
配置	➤ 主要な眺望点からの山並みや自然景観への眺望を阻害しない配置とする。																					
形態・意匠	➤ 周囲の自然景観や集落景観、町並み、田園等と調和するような配置・形態意匠とする。 ➤ 壁面の規模が大きな建築物・工作物は、威圧感や圧迫感を低減させるよう形態意匠を工夫する。また大面積に具象な絵柄や必然性のないデザイン、華美な装飾を施さないようにする。																					
材質	➤ 光沢のある材料や反射光の生じる素材を大部分にわたって使用することは避ける。																					
高さ	➤ 建築物および工作物の高さの制限は右のとおりとする。 (ただし市長が認めるものはこの限りでない) ➤ ただし上記の基準内の高さであっても、主要な眺望点からの山並みや自然景観への眺望を阻害しないようにする。 <div>用途地域内：25m以下 用途地域外：15m以下</div>																					
色彩	➤ 素材の持つ自然色を生かし、彩度、明度の高い色彩を基調色として用いないようにする。また農村地域においては、周辺の農地や自然景観に調和した色調とする。 ➤ 外観の色彩は右のとおりとする。ただし着色していない木材、土壁、ガラス等の材料によって仕上げられる部分の色彩、見付面積の1／10未満の範囲内で外観のアクセント色として着色される部分の色彩についてはこの限りでない。 ➤ 使用する色数はできる限り少なくし、複数の色を使用する場合は、色の三属性(色相、明度、彩度)の対比が強くないよう配慮する。 <div>彩度： R・Y : 4.0以下 Y R : 6.0以下 G Y ~ R P : 2.0以下 明度：制限なし</div>																					
配置・形態・意匠	➤ 文化財、別荘地、野外レクリエーション地等との近接を避けること。もしくは、樹木等による緩衝帯を設けること。 ➤ 太陽光パネルの材質は、低反射性のものを使用すること。 ➤ 太陽光パネルの模様が目立たないものを使用すること。																					
高さ	➤ 15m未満（斜面に設置する場合、最も低い位置に設置する太陽光パネル及び架台を含む最下部から、最も高い位置に設置する太陽光パネル及び架台を含む最頂部までを高さとする）																					
色彩	➤ 太陽光パネルの色彩は、周辺の景観と調和した色彩を使用し、黒色、濃紺色とし、低明度かつ低彩度の目立たないものを使用すること。 ➤ 主要な眺望点や交通量の多い道路等から容易に望見できる傾斜面に設置する場合は、太陽光パネルのフレームは、できるだけパネル部分と同系統の色とし、低反射のものを使用する等の工夫を施すものとする。 ➤ 附属設備（パワーコンディショナ、キュービクル等）は、周辺景観と調和した色彩とし、高明度色を避け、かつ低彩度色で統一すること。																					
緑化目隠し	➤ 樹木の伐採は、必要最小限とすること。 ➤ 交通量の多い道路等から見える場所や隣接して民家等集落がある場合は、太陽光発電設備の目隠しとなるよう、境界付近に植栽もしくは塀等を設置すること。 ➤ 目隠しとなる植栽及び塀を施す場合は周辺との調和、連続性に配慮したものとする。																					
維持管理	➤ 太陽光発電設備及び敷地内は、定期的に保守点検を行うなど適切に維持管理し、時間的経過に伴う景観悪化を防ぐ等維持管理に努めること。 ➤ 事業終了後には、適切に撤去及び処分を行うこと。																					

【提出された届出の種類】

・建築物（新築）：11

・建築物（増築）：2

・太陽光発電設備（新設）：5

・開発行為（新規）：4

・開発行為（新規）：1

・土地の形質変更：2

・工作物（新築）：1

※重複含む。

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		
項目		評価対象年度 令和6年度 現在の状況
岩村城石垣修理事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	令和2年度～令和11年度	
支援事業名	市単独事業	
計画に記載している内容	標高717mの急峻な山の頂に築造された近世山城の代表・岩村城を支えてきた石垣である。これまで修理が行われてきたが、木の根や流水等によって石が浮いたり、孕んだりしている個所も見られ、一部、崩壊の危険性の高い箇所も見られる。 本石垣は、本丸等が無くなった現在においても、城下町の形成と発展を牽引してきた岩村城の基礎として、地域の歴史を語る大きな拠り所となっている。当事業により石垣の修理を行うことで、地域の歴史的風致の維持を図ることができる。 事業概要：崩壊の危険性の高い石垣の修理(対象面積：約300㎡)。石垣支障木の伐採。	
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で		
令和6年度は、地域のボランティアによる草刈り・清掃作業の際に、石垣に生えた雑草等の除去を6月2日、9月8日に実施し、地域の歴史的風致の維持を図った。また、腐朽した桜古木の伐採を行った		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		
<div></div> <div>石垣の清掃</div>		

評価軸③-2 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		
項目		評価対象年度 令和6年度 現在の状況
岩村城下町まちなみ保存事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	令和2年度～令和11年度	
支援事業名	国宝・重要文化財等保存整備費補助金、市単独事業	
計画に記載している内容	重要伝統的建造物群保存地区内の歴史的建造物に対し、修理修景に助成を行うことにより、後継者不足や修理費用の負担、また火災等の災害による歴史的建造物の滅失・荒廃といった課題を解決し、歴史的建造物を保護することで、歴史的風致の維持向上を図る。 事業概要：重要伝統的建造物群保存地区内の家屋の保存修理、防災事業等。	
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で		
伝統的建造物群保存地区内の建物1件の修理修景に助成を行い、歴史的建造物の保護による歴史的風致の維持向上を図った。 主な家屋修理内容：3軒の外壁・扉・屋根の修理 【事業費：10,872,060円 国庫補助額：5,436,000円（3件分） 工期：4月から3月まで】		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		
<div> 田中家 </div>		

評価軸③-3 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項	
	評価対象年度 令和6年度
項目 岩村城登城道整備事業	
現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	令和2年度～令和11年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	・岩村城への登城道及び付近の修景整備 ・案内標識の設置 ・ベンチの設置等
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で	
令和6年度は、地域のボランティアによる草刈り・清掃作業の際に、登城道付近に生えた雑草等の除去を6月2日、9月8日に実施し、地域の歴史的風致の維持を図った。	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	
状況を示す写真や資料等	
<p>6月2日（参加者77名）/9月8日（参加者145名）</p> <div></div>	

評価軸③-4 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項	
評価対象年度 令和6年度	
項目 道路美装事業	
現在の状況 <input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間 令和3・6年度	
支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)	
計画に記載している内容 当該地区は、道路美装が施工されず中山道がどこであるのか非常にわかりにくい状況である。また道路の老朽化も進んでいる状況である。 中山道を明確にするとともに、来訪者や住民が安全に散歩できるようにするため、道路美装化を行う。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
地元自治会及び関係機関との調整に時間を要したことに加え、ロールドアスファルト舗装に使用するプレコートチップ材の納入に遅れが生じ、約2ヶ月の遅れが生じている。	
進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
<input type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	
状況を示す写真や資料等	
令和6年度施工予定箇所(赤線部分)	
<div>整備地区計画図</div> <div></div>	

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

惠那市-8

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
祭礼復興事業(武並宮御祭礼規定に基づく祭礼)			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	令和2年度～令和11年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	<p>毎年10月第1週の土曜日から日曜日にかけて行なわれる「岩村町秋祭行事」は、岩村城を築いた加藤景廉の子である景朝のご神体を神輿に乗せ、時代衣装を身にまとった総人員約300人が長さ300mに及ぶ行列を整え武並神社を出発し、岩村町本通り(重要伝統的建造物群保存地区)約1.7kmを練り歩き、景廉が祀られている八幡神社に運ぶ。翌日、神輿は再び行列によって武並神社に帰る。行列の役割・内容などは、嘉永5年の「武並宮御祭礼規定」にある次第から変化しておらず、行列中の御神馬に使用する飾馬具類は、天保の頃のものを使用されていることから傷みが目立っている。祭りに使う衣装類の計画的な整備を行うなど、地域で長年受け継がれている伝統行事を支援することで、歴史的風致の維持向上と地域住民の景観形成や歴史文化に対する意識の向上を図る。</p> <p>事業概要: 岩村町秋祭行事の祭礼衣装等の整備。</p>		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
<p>コロナ禍によりしばらく縮小などしていたが、令和6年度より岩村町秋祭行事を通常通り開催した。 【助成額: 710千円】</p>			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
			
秋祭り行事の様子			

評価軸③-7 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項	
項目	評価対象年度 令和6年度 現在の状況
ふるさと文化普及継承事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
事業期間	令和2年度～令和11年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	<p>宿場町大井地区を中心として、文化財等の文化遺産について、広く市民、来訪者に啓発することにより、歴史文化に対する意識の向上を図る。また、祭礼行事や歴史文化に関する伝承や後継者を育成することにより後世に渡って良好な歴史的風致を維持することができる。</p> <p>事業概要:文化財等の保存・活用に関わっている団体やまちづくり協議会等の地域組織と連携をとりながら、文化財等の普及啓発活動を行う。また、地域住民や学校などに働きかけイベントや講習会の実施、歴史遺産の調査を行うことで歴史文化に関心をもってもらい、後継者の育成に努める。</p>
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で	
<p>令和6年度は国民文化祭への対応により、恵那市伝統芸能大会は実施しなかったが、「恵那の食・芸術・文化の祭典～受け継がれていく文化～」を開催し、伝統芸能の講演を行った。地域で活発に行われている地芝居（地歌舞伎）などの披露や伝統芸能大会もあり、市民が郷土芸能や文化に触れる機会を設けることができた。今後も地域の芸能活動を応援していく。</p> <p>【助成額200千円】</p>	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	
状況を示す写真や資料等	
 <p>令和6年 「恵那の食・芸術・文化の祭典～受け継がれていく文化</p> 	

評価軸④-1 文化財の保存又は活用に関する事項	
	評価対象年度 令和6年度
項目	現在の状況
文化財の防災	<div><input type="checkbox"/>実施済</div> <div><input checked="" type="checkbox"/>実施中</div> <div><input type="checkbox"/>未着手</div>
計画に記載している内容	文化財を火災や盗難から守るためには、文化財及びその周辺の状況を事前に把握しておく必要があるため、消防本部、警察署等と市内の文化財について建造物を中心に所在場所の情報を共有し連携を強化するとともに、査察を行ったり啓発ポスターを配布したりすることにより予防に努め、主要な建造物の消火訓練や連絡体制の確認を行い文化財の防火防災に対する意識の高揚を図る。 盗難、毀損等の人的な災害に備えるため、担当課署は歴史的建造物のパトロールを随時行う。 また、消防設備の整備にあたっては、周辺の景観に調和したものとし、今後修理が行われる「岩村藩鉄砲鍛冶加納家」や「木村邸」については、火災報知器等の設備の設置を行う。
定性的・定量的評価（自由記述）※定量的評価は可能な範囲で	
・令和6年11月3日 防火パレード(重要伝統的建造物群保存地区:参加者140名) ・令和7年1月20日 岩村歴史資料館の防火訓練(参加者6名) ・令和7年1月23日 市指定有形文化財の中山道ひし屋資料館の防火訓練(参加者数8名) ・令和7年1月27日 市指定有形文化財の明治天皇大井行在所の防火訓練(参加者6名)	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
<div><input checked="" type="checkbox"/>計画どおり進捗している</div> <div><input type="checkbox"/>計画どおり進捗していない</div>	
状況を示す写真や資料等	



伝建地区での防火パレード





明治天皇大井行在所での防火訓練

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
文化財の普及・啓発			<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手
計画に記載している内容	<p>市民が市内各地に点在する文化財等の地域資源を生涯学習として学ぶ機会を作り出すことにより文化財保護の普及・啓発に努める。</p> <p>市内の小中学校の児童・生徒に、地域の祭礼等伝統行事を郷土学習として学ぶよう学校を通じて依頼することにより担い手をつくり、伝統的な祭りを維持していく。</p>		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
<p>令和6年度は、小学生が社会見学にひし屋資料館を訪問し、民具などを見ながら往時の人々の生活の様子を知ることができた。また、中山道の観光案内ボランティアを養成するため、年3回のかたりべの会養成講座を実施した。明治天皇大井行在所での座学によるワークショップや、中山道の現場を歩き、沿線史跡の説明を聞くなど市民の興味を持っていただけた。</p>			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
<p>令和6年度に行った主な行事</p> <p>5月18日 第1回かたりべ養成講座（中山道散策）21名</p> <p>6月22日 第2回かたりべ養成講座（中山道散策）19名</p> <p>10月26日 第3回かたりべ養成講座（中山道散策）6名</p>			
		<div>第2回かたりべ養成講座</div>	
			

評価軸⑤-1 効果・影響等に関する報道		
報道等タイトル		評価対象年度 令和6年度 掲載紙等
中山道のれんコンテスト	R6.11	広報えな
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で		
<p>令和6年11月3日から24日までの間、中山道のれんコンテストを開催。令和2年度に改修した明治天皇大井行在所をはじめ、大井町、長島町の軒先に世界中から集まったのれんを展示した。</p>		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし		
状況を示す写真や資料等		
<div><div>大井町・長島町</div><div><h3>中山道のれんコンテスト</h3><p>秋の風物詩として定着した中山道のれんコンテストを開催。今年のテーマは「夢」です。大井宿本陣跡から長島町中野長島橋までの軒先を、世界中から集まったのれんが彩ります。</p><p>投票期間 11月3日(日)祝～24日(日)</p><p>投票方法 展示場所に設置の箱（7カ所あり）に投票するか、大井町か長島町の地域情報サイトで投票する。</p><div><div><p>◀ 昨年の作品</p></div><div><div>【大井町】</div></div><div><div>【長島町】</div></div></div><p>明治天皇大井行在所 ☎ 25-7101</p></div></div>		

広報えな掲載記事

評価軸⑥-1 その他（効果等）													
評価対象年度 令和6年度													
項目													
歴史的風致に対する市民意識の向上													
計画に記載している内容	本市の歴史資源などを紹介するパンフレットを一層充実させ、各種イベントやシンポジウムの開催時などに配布する。また併せて、歴史文化を紹介する市のホームページの充実を図る。また、地域活動組織やNPO等と行政の共同により講演会の開催を行い、歴史的風致を活かしたまちづくりを進める。 企画段階から市民に参加を促し、市の文化財や地域に対する理解と愛着を増進させることにより意識の向上を図り、文化財の保存・活用、まちづくりに繋げていく。												
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付													
令和6年8月に行われた「恵那市市民意識調査」の中で、恵那市のまちづくりについて（自然、まち並み、歴史・文化関係）尋ねる設問があり、今後も継続的に結果を観察することで、歴史まちづくりの効果を経年的に把握する。													
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）												
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし													
状況を示す写真や資料等													
<div>○恵那市市民意識調査</div> <div>問19 あなたは、普段の暮らしの中で、住んでいる地域ならではの文化や風習を感じますか？ [単数回答] (N=1,332)</div> <div><table border="1"><caption>問19 文化や風習について [単数回答]</caption><thead><tr><th>回答</th><th>割合</th></tr></thead><tbody><tr><td>たまに感じる</td><td>47.5%</td></tr><tr><td>ほとんど感じない</td><td>30.0%</td></tr><tr><td>よく感じる</td><td>16.3%</td></tr><tr><td>まったく感じない</td><td>4.7%</td></tr><tr><td>無回答</td><td>1.6%</td></tr></tbody></table></div>		回答	割合	たまに感じる	47.5%	ほとんど感じない	30.0%	よく感じる	16.3%	まったく感じない	4.7%	無回答	1.6%
回答	割合												
たまに感じる	47.5%												
ほとんど感じない	30.0%												
よく感じる	16.3%												
まったく感じない	4.7%												
無回答	1.6%												
(1) 性別・年齢別の集計一覧													
設問概要	項目	全体	性別				年齢別						
			男性	女性	回答しない	無回答	～29	30～49	50～69	70～	無回答		
問19 文化や風習について [単数回答]	N	1,332	585	708	25	14	101	314	564	250	103		
	よく感じる	16.3%	18.3%	15.1%	8.0%	7.1%	10.9%	21.0%	15.1%	13.2%	21.4%		
	たまに感じる	47.5%	44.3%	50.4%	48.0%	35.7%	50.5%	45.9%	49.1%	45.6%	45.6%		
	ほとんど感じない	30.0%	32.0%	27.7%	36.0%	50.0%	29.7%	28.3%	29.6%	32.8%	30.1%		
	まったく感じない	4.7%	3.9%	5.4%	4.0%	0.0%	8.9%	4.8%	3.9%	6.0%	1.0%		
	無回答	1.6%	1.5%	1.4%	4.0%	7.1%	0.0%	0.0%	2.3%	2.4%	1.9%		

中間評価シート

中間評価(表紙)

恵那市 歴史的風致維持向上計画(平成23年2月23日認定)
中間評価(令和2年度～令和6年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史資源の魅力の向上及び活用の促進と町並み整備保全.....	3
II 歴史的風致に対する市民意識の向上.....	4
III 歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成.....	5
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 明治天皇大井行在所の整備にかかる観光客の増加.....	6
ii 岩村重伝建地区内における観光客の増加.....	7
iii 中山道における案内看板の向上.....	8
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 岩村城下町まちなみ保存事業	9
B 岩村城登城道整備事業.....	10
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 城下町岩村に見る歴史的風致	11
2 中山道大井宿村に見る歴史的風致.....	12
3 中馬街道・明知に見る歴史的風致.....	13
4 寒天製造に見る歴史的風致.....	14
5 祭礼の奉納行事に見る歴史的風致.....	15
■ 庁内体制シート(様式6).....	16
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	17
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	18

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町岩村に見る歴史的風致	I	
2	中山道大井宿村に見る歴史的風致	I, II	
3	中馬街道・明知に見る歴史的風致	I	
4	寒天製造に見る歴史的風致	I, III	
5	祭礼の奉納行事に見る歴史的風致	III	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史資源の魅力の向上及び活用の促進と町並み整備保全		
II	歴史的風致に対する市民意識の向上		
III	歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	明治天皇大井行在所の整備における観光客の増加		
ii	岩村重伝建地区内にかかる観光客の増加		
iii	中山道の看板案内の向上		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	岩村城下町まちなみ保存事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	岩村城登城道整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
方針	I 歴史資源の魅力の向上及び活用の促進と町並み整備保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 市内の未指定文化財の建物は、新しい住宅への建て替えや、管理不全の空き家になっている場合がある。恵那市が所有する歴史資源においても、限られた財源の中、適切な管理が十分されず老朽化が著しい箇所がある。また、屋外広告物等の形態意匠の景観阻害要因が増えてきている。

【方針】 発掘調査などの学術調査を順次実施し、必要に応じて復原や修理、修景を施す。また、歴史的文脈を踏まえた歴史資源の修理・修景整備を進め、住民や来訪者が快適に散策できるよう、歴史的建造物の移築や道路美装、広告物の規制など景観的な配慮を行うとともに、休憩所などの空間の整備を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	岩村城石垣修理事業	岩村城の石垣清掃を実施	あり	R2～11
2	岩村城下町まちなみ保存事業	7件の修理修景補助	あり	R2～11
3	岩村城登城道整備事業	令和4年度登城路舗装を実施	あり	R2～11
4	明治天皇大井行在所整備事業	文化財を活用した住民の交流場所の確保	あり	R1～2
5	長屋門移設保存事業	市指定文化財長屋門の移設	あり	R2
6	ポケットパーク整備事業	ポケットパーク(芝生エリア及び駐車場)整備	あり	R3～4
7	道路美装事業	道路美装化(ロード舗装)320mの実施	あり	R3、R6
8	中央公園整備事業	中央公園の再整備を実施	あり	R3～4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・明治天皇大井行在所整備事業
大井地区については、中山道大井宿地内で空き家になっていた明治天皇大井行在所を大規模修理し市指定文化財に指定した。また、同敷地内には市指定文化財の長屋門を一体管理するために移築したことで大井宿の観光の拠点となり、市民や観光客の交流の場となった。

・岩村城下町まちなみ保存事業
国の重要伝統的建造物群保存地区の岩村町本通りにある伝建物などの修理・修景の補助事業により、まちなみ保存を進めてきた。歴史あるまちなみとしての景観も整い、住民の景観保存に対する意識も高まってきた。

④ 自己評価
かねてから、明治天皇大井行在所と長屋門は中山道の遺産として重要であり、今回の整備によって、中山道大井宿の活性化の一翼を担う形にもなり、整備の成果があった。
岩村町本通りでは、修理・修景の整備が進むことで、観光客も多く訪れるようになった。地域住民の町なみ保存の意識も高まり、魅力も高まってきた。

⑤ 今後の対応
市内の歴史文化の情報を発信する機会も増えたことから、海外からの観光客も訪れるため、パンフレットや看板などの外国語表記などインバウンド対応が必要である。
明治天皇大井行在所は、地域住民主導による管理と活用を継続し、市民や観光客が気軽に訪れ、交流できる施設にしたい。



ポケットパークの整備 R4.3



道路美装化の様子(R3事業)

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
方針	Ⅱ 歴史的風致に対する市民意識の向上	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 市内には旧街道沿いを中心に旅籠跡や豪商の家屋、道標や石碑など歴史資源が多数あるにも関わらず、市民の多くは、そうした事実に対する認識が薄く、地域にある歴史資源に触れ親しむ機会が少ない。

【方針】 恵那市の歴史資源などを資料館や公開施設で紹介するとともに、パンフレットを一層充実し、各種イベント開催時などに配布や、歴史文化を紹介する市のホームページの充実を図る。また、地域活動組織やNPO等と行政の協働による講演会の開催を行い、特に岩村城や古い町並みの歴史や特徴は、看板等で説明していく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
9	中山道保存整備事業	中山道の維持管理	あり	R2～11
10	案内看板設置事業	15か所の看板修繕	あり	R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・中山道保存整備事業

市内を通る中山道沿線には3つの保存会があり、道路や施設の保存管理のため清掃作業などを行っている。沿線に設置された案内看板を活用し観光ガイドや学習会なども行われているが、老朽化が進み、整備が必要となっていた。

中山道の整備として、地元の協力を得ながら道路美装や案内看板の設置を行い、景観も改善され、来訪者も周遊しやすくなった。

事業実施により保存活動団体の活動意欲も高まり、高齢化による後継者不足を解消するため、観光ガイドの養成や、歴史と文化を後世に受け継いでいくための学習会や講座なども開催されている。

令和3年度清掃の様子

保存会の協力で維持されている

④ 自己評価

宿場内の案内看板を改善したことでボランティアガイドが案内の際に活用し、市内を訪れる観光客も周遊時の見学ポイントの目印となった。中山道の保存整備は地域からの要望もあり、実施により意欲が高まり、今後も継続した活動が期待できる。

⑤ 今後の対応

今後も老朽化した看板の修繕など、重点地区内の不備を感じる箇所については地域と協力しながら観光客目線で景観に配慮しながら修理し維持管理をしていく。

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
方針	Ⅲ 歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要
【課題】 少子高齢化の進行や地域の行事などに無関心な住民も増え、受け継がれてきた伝統行事においてもこれまで通りの運営を続けることが困難な状況となっている。
【方針】 伝統芸能などの担手育成のため、地域に残る歴史や文化を誰もが気軽に学び、触れることができる機会を創出する。また、伝統芸能の場に積極的に小中学生などを参加させるとともに、市内の歴史的風致を継承する団体に対し支援を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
11	祭礼復興事業	秋祭り行事の補助	あり	R2～11
12	ふるさと文化普及継承事業	伝統芸能大会の開催	あり	R2～11

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・祭礼復興事業
 国の重要伝統的建造物群保存地区の岩村町本通りでは、岐阜県重要無形民俗文化財の岩村町秋祭行事が江戸時代から続いている。現在では少子高齢化による参加者の減少と行事開催経費の負担も課題となっていた。祭礼に係る経費については補助金を交付により開催を維持し、古い街並みで執り行われる地域の祭りには子供から高齢者まで広い世代の住民が参加し継承されている。



・ふるさと文化普及継承事業
 市内各地には伝統芸能を継承する保存会があり、どの団体も高齢化による後継者不足が心配されている。活動支援として、市内の伝統芸能保存継承団体が一堂に会して発表する恵那市伝統芸能大会を開催している。市無形民俗文化財の地歌舞伎や獅子芝居など地域に根付いた歴史ある芸能が上演される。日頃の活動成果を大ホールの舞台上で披露することで、出演者の気持ちも高まり、後継者不足が心配される中でも、継続につながっている。



秋祭り行事



新町地区の渡御の様子

④ 自己評価
 江戸時代からの体裁を守りながら、伝統的建造物群保存地区を渡御する伝統的な祭礼の維持が行われている。また伝統芸能大会の開催により市民も普段見られない芸能を堪能することができ、活動団体は伝統芸能を披露する機会となり、保存継承につながっている。

⑤ 今後の対応
 岩村町秋祭行事は県重要無形文化財であり重要な祭礼であり、市としては今後も保存継承のための継続した支援をする。また伝統芸能大会等、伝統芸能を披露する場の提供は、出演者たちの機運を高め、保存継承につながるため、今後も継続していきたい。

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6						
効果	i 明治天皇大井行在所の整備にかかる観光客の増加								
① 効果の概要 歴史的風致の充実による城下町岩村地区への来訪者の増加									
② 関連する取り組み・計画									
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度						
1	第2次恵那市総合計画	あり	H28～R7						
2									
3									
・明治天皇大井行在所を整備し、市民の交流の拠点、観光客の訪問の増加を目指す目的で整備された。									
③ 効果発現の経緯と成果 明治天皇大井行在所は大規模修理を行い、令和3年に開館した。毎年6000人程度の市民や観光客が訪れ、指定文化財を活かした拠点として、会議やイベント、歴史資料等の展示など様々な活用が行われている。 また、市文化財に指定した御座所や当時使用された便所など明治天皇巡幸の往時の状態も見ることができ、複合的な文化財施設として一定の評価を得ている。									
【入所者数の推移:人】									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和3年</th><th>令和4年</th><th>令和5年</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,306</td><td>6,788</td><td>6,255</td></tr> </tbody> </table>		令和3年	令和4年	令和5年	5,306	6,788	6,255		
令和3年	令和4年	令和5年							
5,306	6,788	6,255							
④ 自己評価 今まで大井宿には市民や観光客が滞留する施設がなかったが、施設が開館したことで交流の場となった。また、裏の駐車場を多目的スペースとして活用でき、地域住民が野外イベントなどを開催することで、地元内でも活力のある場が生まれ、施設に関心が向くようになった。		R5 高校生による寺子屋の様子							
⑤ 今後の対応 引き続き、市民ニーズを取り入れながら、文化財の保存と活用を検討し、適切な維持管理を行っていく。									

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6			
効果	ii 岩村重伝建地区内における観光客の増加					
① 効果の概要 岩村重伝建地区内の公開施設の入館者数の増加						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H24～R2			
2	都市再生整備計画	あり	H25～27			
3	地域商店街活性化事業・地域にぎわい補助金	なし	H23～26			
コロナウイルスの影響もあり、一時は減少していた観光客が戻り、公開施設の入館者数も増加している。						
③ 効果発現の経緯と成果 重伝建地区内には、5つの公開施設がある。(木村邸資料館、指定文化財勝川家、工芸の館土佐屋、いわむら美術の館、旧石橋家)。世界ラリー選手権や映画のロケ等で徐々に認知度も増し、全国の注目度も増している。 特に指定文化財の木村邸や勝川家は、豪商で名をはせた江戸時代の主屋が現存しており、美しい中庭等岩村の歴史的風致を象徴する景観を今も見せている。						
【例:指定文化財勝川家の入館者数:人】						
令和3年	令和4年	令和5年				
9,651	21,184	30,332				
④ 自己評価 重伝建地区に選定されてから、街並み保存を行ってきており、地域住民の理解を得ながら今も良好な景観を維持できていることは大きい。		 <p>指定文化財勝川家 R3</p>  <p>特徴的な娘の部屋</p>				
		⑤ 今後の対応 引き続き、重要伝統的建造物群保存地区として行政、まちなみ保存会や地域住民の方々と協力し、建物の修理修景を進め、景観保全に努めていく。				

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
効果	iii 中山道における案内看板の向上		
① 効果の概要 中山道の老朽化した案内看板を新たに更新し、通行者の利便性が向上した。			
② 関連する取り組み・計画			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	中心市街地活性化基本計画	あり	H24～R2
2	都市再生整備計画	あり	H25～27
3	地域商店街活性化事業・地域にぎわい補助金	なし	H23～26
・老朽化した看板を更新により、観光客の利便性が向上した。			
③ 効果発現の経緯と成果 大井宿は、中山道46番目の宿場町であり、善光寺街道の中継点でもあり当時から多くの通行客で繁栄していた。 道路も特徴的な柵形(クランク)が2か所あり、現在新たに開通している市道と混在しているため、観光客がスムーズに中山道を散策できるために、老朽化した案内表示等を15箇所更新した。 通行客も脇道等へ入ることもあったが、案内看板を更新して動線が示されているので、自分のいる場所や次の目標がわかりやすくなり、利便性が向上した。			
			新しい案内表示 R5.11
			案内看板に動線を追加した
④ 自己評価 看板更新の依頼は市民から上がっていたが、費用面から事業ができなかった。 今回の更新で、景観に即した案内表示ができて、通行者もわかりやすくなった。			
⑤ 今後の対応 今後も、来訪者のニーズあうような説明看板やインバウンド等にも対応した多国籍表示も視野に入れた更新をおこなっていく。			

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
取り組み	A 岩村城下町まちなみ保存事業	種別	歴史的風致維持向上施設
① 取り組み概要 <p>・恵那市歴史的風致維持向上計画の重点地区の一つである岩村地区の城下町は、近世初期に城下町が建設されて以降、この地方の政治、文化、経済の中心として明治期まで栄えた。現在では国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、毎年国(文化庁)の補助を受けながら地区内の建物の修理、修景事業を行い、歴史的景観を残している。</p> <p>この事業を通して、歴史的価値のある建造物は当時の形に復元するため修理・修景・保存方法を検討している。また、この歴史ある町なみは、地区内の住民による、まちなみ保存会が中心となり官民連携しながら保存意識を高め、良好に維持管理が行われている。</p>		 <p>修理前の様子(R5、6年)</p>  <p>修理後の様子</p>	
② 自己評価 <p>建造物の修理修景事業は、単なる建物の修理ではなく、釘孔や柱など痕跡調査を行いながら、可能な限り建築当初の形に復原する方法で行っている。</p> <p>このような修理を経て、江戸時代から続く街並みと明治時代に広がった街並みがうまく調和して一体感をもった景観を形成している。</p> <p>引き続き官民連携により、歴史的町並みの保存を行っていく。</p>			
外部有識者名	出村 嘉史(岐阜大学社会システム経営学環教授)		
外部評価実施日	令和7年3月13日		
③ 有識者コメント <p>風情を継承するよう工夫をした改修が進められている。当該エリアに継承の意識が今後も高められていくとよい。ただし、「保存」することに焦点を置きすぎると、かえって保存を継続する仕組みが作りづらく、十分な補助や支援がないと立ち行かなくなってしまう現状の状況を打破できないものと考えられる。今後もこのまちが持続するために、いまある建物や改修された建物を用いてここならではの魅力的な商業(飲食・小売・サービスなど)が発達する民間の工夫が欠かせない。過去の履歴を生かして、さらに現代に魅力を増すしくみと空間づくりのデザインがさらに必要と考えられる。また、歴史的風致維持向上計画に関連する各要素の整備事業などが、どのような価値を向上させるものであるべきなのかについての継続的な議論が必要に思われる。市の総合計画が更新時期であるため、全体として何をなすべきか、目標をつねに具体的に意識できるようにするとよい。</p>			
④ 今後の対応 <p>今後も継続して街並みの保存に努めていく。空き家の問題もあるので市外にも岩村の魅力をPRして、少しでも空き家バンクに登録してもらい、利活用してもらえるように指導、相談に応じていく。</p>			

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6					
取り組み	B 岩村城登城道整備事業	種別	歴史的風致維持 向上施設					
① 取り組み概要 <p>・岩村城は岐阜県指定文化財であり、日本三大山城の一つとされ、標高717mに築城された壮麗な石垣を有する城である。日本100名城にも選定されており、近年の山城ブームにより多くの観光客が訪れる名所となっている。</p> <p>この岩村城の登城路は未舗装のため、豪雨により荒れることが多く、過去には石畳で整備を行っている。現在でも未舗装箇所については度々整備を行っている。</p> <p>史跡の保存と岩村城を訪れる観光客の安全に配慮するため、令和4年度に三重櫓から八幡曲輪へと続く登城路の一部を整備した。</p>								
		 <p>舗装された登城路(R6撮影)</p>  <p>歩行者の利便性が向上した</p>						
② 自己評価 <p>岩村城登城路整備事業により整備した箇所は、以前から豪雨により土砂が流れて荒れる箇所であった。今回の舗装工事は史跡としての景観を損なわない工法で施工し、道路の荒れを防ぎ、通行者の利便性と安全を確保することができた。</p> <p>整備については、地元住民や史跡を訪れる観光客からも景観に配慮し、登城しやすくなったとの意見もあり、事業実施の効果もあった。</p>								
外部有識者名	出村 嘉史(岐阜大学社会システム経営学環教授)							
外部評価実施日	令和7年3月13日							
③ 有識者コメント <p>このたびの整備で、城址の雰囲気を受け継いだまま歩行者の利便性を向上させることができています。歩行者の主要経路が整えられたので、続いていわゆる「興味地点」における眺望確保や休憩場所の整備が、市民との連携などでできていくことが求められる。たとえば城山の樹木の枝打ちは、現在得られなくなってしまった見直しを取り戻す必要がある個所には有効と思われる。こうした歴史的風致の根幹である箇所の空間整備とともに、それがどのような一連の回遊行動の中に位置づけられるのかをいまいちどイメージし、議論できるとよい。</p>								
④ 今後の対応 <p>日本三大山城と称される岩村城は、恵那市のシンボルの一つでもあり、城郭を保存していくことは文化財保護として重要である。</p> <p>登城路については、通行者の利便性に支障がないよう、史跡として価値から逸脱しないよう専門家等に指導助言を得ながら、今後も維持していく。</p>								

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	1 城下町岩村に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史資源の魅力の向上及び活用の促進と町並み整備保全		

① 歴史的風致の概要

城下町は重要伝統的建造物群保存地区に指定され、その一部を構成する柳町は足軽長屋に代わり10軒棟続きの2階建て長屋が建てられた。岩村町本町通り周辺では、近代の発展過程を伝える町家群と城下町の商家町地区及び岩村川周辺の武家屋敷地や岩村城跡が、周囲の環境と一体となった歴史的風致を形成している。岩村秋祭行事はこの城下町において、寛永8年(1631)に武並神社に社殿を再建を機に始められた。神輿渡御行列の構成は、衣装、道具とも江戸時代から形を変えず継承されてきた。行列には岩村町民など約300人が参加するなど、地域の住民により歴史、伝統の活動が受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

岩村藩の藩都として栄えた岩村城下町は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、地区内の建造物は国(文化庁)の補助を受けて所有者の理解により修理修景を進め、景観に配慮して適切に保存管理を行ってきたことで、昔ながらの歴史ある街並みを今に伝え見ることができる。

このように、まちなみ保存会を中心に地域住民の地道な取り組みが、昨今の映画やドラマのロケ地に選定されたり、またWRC(世界ラリー選手権)の見学エリアとして多くの来場者が集まる古い町なみを競技車両が通過する光景は、報道やSNSによって取り上げられ、国内外に情報発信された。

城下町では岐阜県無形民俗文化財の岩村秋祭行事のように歴史ある祭礼なども保存継承しつつ、官民が協力しながら町なみを活かした新たな取り組みにより、知名度も格段に上がっている。



工事前R4



工事完了後の様子



現在のまちなみの様子

③ 自己評価

岩村城下町は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことで修理修景が進み、昔からの歴史的風致が維持されている。また、郷土に根付いた地酒やカステラ、五平餅などの地産物も認知されている。

④ 今後の対応

町なみの保存については、住民の高齢化や世代交代も進んでいることから、今後は空家対策も踏まえて、所有者には建物の適切な管理と良好な景観形成に関する理解を深めていただきながら、町なみ保存を進める必要がある。恵那市の宝として、今後も官民協働により景観保全と町なみの保存管理を行い、地域の魅力と恵那の歴史、文化を広く発信していく。

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	2 中山道大井宿村に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史資源の魅力の向上及び活用の促進と町並み整備保全 II 歴史的風致に対する市民意識の向上		

① 歴史的風致の概要

中山道大井宿は中山道46番目の宿場で、江戸から87里(348km)京へは47里(188km)のところにある。今でも当時の面影を残す岩井家(明治天皇大井行在所)では、地域の有志が建物の修理を実施し、平成23年11月に歴史文化の伝承や地域の活動の拠点として活用された。また、永禄7年(1564)に再建された武並神社は江戸時代に大修理を受けたが、平成20年度からの解体修理により建立当初の姿に復原した。この武並神社の例大祭では、地域の氏子による神輿の渡御が大井宿を中心に行われており、地域住民に伝承している。

② 維持向上の経緯と成果

大井地区は、中山道の宿場として栄えた地域であり、今も中山道ひし屋資料館、明治天皇大井行在所など、当時の面影が残る地区である。

明治天皇大井行在所は令和元年、2年にかけて大規模修理を行っており、御座所などは文化財として往時の様子を残した修理を行い、また施設内には市民や観光客が交流できるスペースとして改修した。特に明治天皇が宿泊された御座所は、古記録から前面に白紙の和紙が張られていたことから、忠実に再現している。

また、同地区内で管理されていた市指定文化財の長屋門も行在所敷地内に移築することで、一体的な管理を行うことができ、多くの来場者が見学できるようになった。



H30.6





R5.6

③ 自己評価

明治天皇大井行在所の大規模修理は大井宿を紹介するうえでも大変重要な要素であり、今回の大規模修理でオープンから年間5000人～6000人の訪問客があるなど、大きな成果となっている。

大井宿の拠点として、地域住民や観光客の交流の場として、施設の保存と活用が行われている。



御座所案内の様子

④ 今後の対応

大井宿は、国重要文化財武並神社の例大祭の渡御も行われており、昔ながらの祭礼が継続されている地域でもある。さらに、大井宿の魅力を高めるために中山道広重美術館や観光施設などとも連携しながら、SNSや広報等で情報発信を行い、多くの観光客が訪れる地域にしていく。

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	3 中馬街道・明知に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史資源の魅力の向上及び活用の促進と町並み整備保全		

① 歴史的風致の概要
 中馬街道とは、特定の道の名称ではなく、信州と名古屋を結び中馬輸送が行われた街道の総称である。この中馬街道や南北街道が交わる明智は、宿場、物資の中継地として賑わった。明治に入ると製糸工場が相次いで建てられ、工業の発展によりさまざまな商人が集まるなど、一大商業地として発展した。町並みは、大正から昭和初期にピークを迎え、現存する主要な建物はこの時期に建築された。これらを生かして始まった「日本大正村」運動により、大正、昭和初期の町並みが歴史的風致を形成している。
 八王子神社の例祭は、再建された寛永年間から始まったといわれている。大きな特徴は、明智太鼓と呼ばれる太鼓の打ち囃しがあり、神前で奉納されるばかりでなく、大正の面影の残る市街地に太鼓を積んだ山車が繰り出し、豪快に舞い踊り打ち鳴らしながら引き回す特有な姿で、地域住民により受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果
 ・明智地区は、江戸期は旗本遠山氏の本拠でもあり、中馬街道により信州と名古屋の物流が盛んな地域であった。
 地区内には特に大正期の建物が散見され、その風致を観光面に繋げるために日本大正村が創設され、大正期の風情が漂う風致を形成している。
 またこの地域には無形民俗文化財の地歌舞伎や太鼓、祭礼などが受け継がれ、若い世代も参加しながら後継者育成が行われている。

R4.6

趣のある明知の小路

③ 自己評価
 今も、中心の街並みは、大正から昭和にかけての建物があり、和洋折衷の面影を残っている。他の地区とは異なった独特の風致が維持されている。

④ 今後の対応
 明智町では大正村をPRするための様々なイベント等を催している。町内には岐阜県指定文化財の明知城跡をはじめとする史跡や建造物、伝統芸能などの文化が継承されている。今後も情報発信を行い、明智町の魅力を高める活動を行っていく。

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	4 寒天製造に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅰ 歴史資源の魅力の向上及び活用の促進と町並み整備保全 Ⅲ 歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成		

① 歴史的風致の概要

恵那市の南西部に位置する山岡町は、細寒天を特産とする町である。大正10年(1921)、岐阜県は農家収入の増加を図るため、寒天製造条件の適否調査を行い、東濃地方等が極めて適地であるとした。寒天製造はこの報告を受けて岩村、山岡町で始まった。寒天製造の準備は、稲刈りが終わり初霜の降る初冬に始まる。良質な寒天作りに重要な施設が寒天干し場である。干し場には、工場近くの日当たりと風通しのよい水田が選ばれ、そこに寒天棚を設けられる。寒天の乗った寒天棚が広がる、まるで雪が降ったような真っ白な田園風景と、遠くの山々、そしてまるで漁村にいるかのような磯の香り、それに加え昔から試行錯誤の上で伝えられてきた伝統の技があって「山岡の細寒天」は今も受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

・山岡町の冬季は1日の寒暖差が大きく、寒天づくりに適した地域である。現在では寒天農家は時勢により往時と比べると減少しているが、細寒天の生産量は全国シェアの8割を占めている。今も山岡町を訪れると寒天干しの作業や寒天棚にのった寒天の風景を見ることができ、SNSなどでも写真が掲載され紹介される。

・細寒天をPRするため、明知鉄道では寒天を素材とした懐石料理を味わうことのできる寒天列車を4月～8月の火曜日～日曜日に運航をしている。また、山岡駅に併設された寒天資料館において、寒天の歴史や伝統製法、製法道具の実物を展示することで、地域産業の振興をすすめている。



R5.2



寒天づくりの様子

③ 自己評価

恵那の地産物の代表である寒天を生産する農家は減少しているが、現在も寒天づくりに適した山岡地区では昔ながらの作業により寒天が生産され、冬期にはその作業風景や、寒天棚の情景をみることができる。

④ 今後の対応

今後も恵那市の地産物である寒天生産の作業風景が、この地域の冬の風物詩として受け継がれていくよう、寒天資料館及び明知鉄道におけるイベント列車の運行を引き続き行い、寒天産業を観光資源として活用していく。また、SNS等で若い人に向けたPR活動などを併せて行っていく。

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	5 祭礼の奉納行事に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成		

① 歴史的風致の概要

恵那市は中山間地の農業地帯に立地し、集落は川沿いに展開する中小の盆地や山の斜面の可耕地を単位として集落が構成され、祭礼はこうした集落単位で行われている。獅子舞の奉納行事は旧岩村藩領の地域に多く分布し、大きな特徴は神楽や悪魔祓いを奉納するほか、余興として歌舞伎の外題を演ずる獅子芝居が金毘羅神社、武並神社、八幡神社、白山咩神社で行われている。このほか真剣を両手にもって神楽を舞う蘇原神社、和紙を漆で固めた木の箱に紙で飾りを張った手製の獅子頭を用いる武並神社の重箱獅子が市指定文化財に指定され、地域に根ざした伝統として現在に伝えられている。

② 維持向上の経緯と成果

・市内には各地域に根付いた伝統芸能が受け継がれ、今も地域の行事や祭礼などで演目などが披露されている。特に地歌舞伎、獅子芝居については岐阜県東濃地区で盛んに行われ、市内でも多くの保存会が活動している。

こうした市内の伝統芸能の活動を紹介する機会として、恵那市伝統芸能大会を開催し、保存団体が一堂に会し、日頃の活動成果を披露する。市内外から観覧者が訪れ、普段見ることができない伝統芸能に触れる機会を創出している。



山岡町歌舞伎公演R3.6



岩村町獅子舞の様子 R4.6

③ 自己評価

恵那市特有の地域に根付いた伝統芸能は、江戸時代から昭和初期頃には人々の娯楽の一つでもあった。高齢化により後継者不足も心配される中、地歌舞伎や獅子芝居等の保存会では意欲も高く、公演会などでは多くの観客を魅了している。

④ 今後の対応

伝統芸能の課題は少子高齢化による後継者不足と、コロナ禍により活動停止期間が続いたことで各保存会は活動継続に不安を抱えていた。これは全国的にも抱えている問題でもあり、一部地域だけでなく市全体で参加者を募るなど、違った角度から保存団体と協議しながら維持できるよう働きかけを行いたい。

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
<p>① 庁内組織の体制・変化</p> <p>歴史まちづくりを推進するため、建築住宅課と文化課を事務局とし、事務局と関係課から構成される「恵那市歴史まちづくり連絡調整会議」を必要に応じて随時開催し、関係課、関係機関等との連絡調整、事業施工に関する調整を図っている。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p style="text-align: center;">歴史まちづくりの体制</p> </div> <div style="flex: 0.5; text-align: center;"> <p>恵那市歴史的風致維持向上計画協議会における現地視察</p> </div> </div>			
<p>② 庁内の意見・評価</p> <p>歴史まちづくり事業を推進するうえで、歴史まちづくり連携調整会議の関係課が連携し、事業計画において事業内容や課題等を共有し、課題解決とより良い方法を検討し、事業の効率化を図った。</p> <p>事業実施にあたり、関係課をはじめ地域住民の窓口となる各振興事務所、外部の関係機関が協力連携し、市民等関係者との調整が図られ、円滑に業務を進めることができた。</p> <p>引き続き連携を図りながら歴史まちづくりを進めていく。</p> <p>歴史まちづくり連絡調整会議では、岐阜県や恵那市歴史的風致維持向上計画協議会と連絡調整を行い、必要に応じて関係課が集まり、歴史まちづくり事業に関する事業の進捗確認や連絡調整を行った。これによって、関係各課の事業に対する認識等を高めることができた。</p> <p>歴史まちづくり事業は複数の課にまたがる事業があるため、連絡調整ができる体制が整っていることで、庁内での事業の推進を進めることができる。</p>			

市町村名

恵那市

評価対象年度

R2～R6

① 住民意見

【パブリックコメントにおける意見】

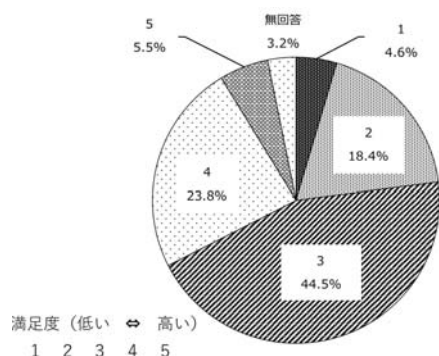
【恵那市市民意識調査(令和5年8月実施)における意見】

- ・移住してきて欲しいと言いながら、学校はなくす。歴史と景観を大事にと言いながら太陽光発電だらけ、やっていることがチグハグで自分達で魅力を落としている。恵那市の魅力を守れるよう頑張って欲しい。(30～49歳 男性)
- ・歴史のある街並みを活かしてほしい(中山道沿い等)。(30～49歳 男性)
- ・明智町を初め、恵南は恵那市から見放されている感じがします。そしてそれぞれの地域の文化や歴史が深すぎて中々恵南も1つになれていないと感じます。中々難しい問題だと思えます。(30～49歳 男性)

【恵那市市民意識調査設問抜粋】

問10 恵那市のまちづくりについて、あなたは、どのように感じていますか？

③ まちの魅力について(自然・町並み・歴史・文化)



(1) 性別・年齢別の集計一覧

設問概要	項目	全体	性別			年齢別			
			男性	女性	答えない	～29	30～49	50～69	70～
③まちの魅力について	N	1,353	619	693	27	120	324	481	324
(自然、町並み、歴史・文化)	1	4.6%	4.4%	4.6%	11.1%	4.2%	4.3%	5.0%	3.7%
	2	18.4%	18.7%	18.0%	29.6%	10.8%	15.4%	19.3%	22.5%
[単数回答]	3	44.5%	43.5%	46.2%	37.0%	40.0%	45.1%	45.9%	43.8%
	4	23.8%	23.4%	24.5%	18.5%	34.2%	26.2%	24.3%	18.8%
満足度(低い ⇄ 高い)	5	5.5%	7.4%	4.2%	0.0%	9.2%	7.7%	4.2%	4.3%
	無回答	3.2%	2.6%	2.5%	3.7%	1.7%	1.2%	1.2%	6.8%

(N=1,353)

② 協議会におけるコメント

【恵那市歴史的風致維持向上計画協議会の主な意見(令和2年度～令和6年度)】

令和2年度

- ・中山道大井宿の明治天皇大井行在所が整備されたことにより、市民の交流する拠点になり、文化財を広く周知できる。今後は中山道の整備や周辺環境の保全も検討したい。
- ・岩村城跡への関心は高まっており、地元ボランティアを中心に愛着を持って清掃活動や美化に取り組んでいる。修理整備は専門家の助言を得ながら時間をかけて行う必要がある。

令和3年度

- ・登城道が急峻であることを体験いただくことも重要。自力で上がることが難しい方には、駕籠など、人力で上がっていただく体験をしてもらうのもよいかもしれない。
- ・民地に人工の工作物があり、景観に違和感がある。エリアごとの景観計画によりルールを作ることが解決策になるかもしれない。

令和4年度

- ・岩村城の登城路で、民地内にブロック積みがある。歴史的雰囲気のある場所に違和感がある場所が一部でもありと雰囲気が崩れる。景観計画によりルールを作る。
- ・中山道の石畳が剥がれている箇所がある。景観を損ねないよう改修してほしい。

令和5年度

- ・中央公園再整備は大井宿を中心に賑わいを取り戻す観点で整備した。今後、歴史的風致と絡めた公園整備では、拠点として賑わいを創出するイベントを進めてほしい。
- ・地歌舞伎公演には多額の費用が掛かる。伝統芸能の保存継承として力の入れどころである。

令和6年度

- ・中山道の未舗装箇所は大雨により荒れてしまう。崩れない方法で整備をお願いしたい。
- ・伝建地区内の建物の修理・修景を進めていく必要があるが、実施数が減少している。また土蔵の整備は防災施設として補助対象のため周知してほしい。防災計画の見直しも必要。

市町村名	恵那市	評価対象年度	R2～R6
① 全体の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・恵那市の歴史的風致の魅力を高めるために、地域の歴史・文化を学習する機会を設け、行政と市民がともに理解を深めながら、地域の歴史・文化の保存継承を図るとともに、それを活かした間接効果を上げる方策を検討する必要がある。 ・市が実施した市民意識調査などからも、歴史的風致に対する関心が薄いため、歴史的風致維持向上計画により実施した事業をはじめ、市内の歴史文化について若い世代にも分かりやすく周知していかなければならない。 ・コロナ禍により市内各地で行われてきた文化活動が中止となった。少子高齢化も相まって地域で保存継承されてきた伝統芸能や祭礼なども継承も難しくなってきた。後継者不足により受け継がれた文化が途絶えてしまうことがないよう、子供たちや若い世代の方々に伝統芸能などの魅力を教えていく必要がある。 ・第2期計画前期で明治天皇大井行在所、中央公園などの整備により、市民の賑わいを取り戻す・創出する環境の整備を行った。本計画で整備した施設を利活用し、賑わいを創出できる仕組みを考えていく必要がある。 			
② 今後の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・恵那市は歴史、文化、自然環境にも恵まれた地域であることから、その魅力を広く発信し、市が掲げる移住定住の促進につながるような取組を行う必要がある。 ・市内では空家対策が課題となっている。重要伝統的建造物群保存地区内をはじめ農村地区などでも空家も増えてきた。今後も所有者に理解を得ながら適正に管理いただく必要がある。移住定住の促進や景観を形成するための建物の保存活用のため、市民、関係機関との連携により対策を行っていく。 ・地域に根付いた伝統芸能や祭礼など、少子高齢化などによる後継者不足が懸念される。市民がそれぞれの地域の歴史や文化を学び、絶やすことがないよう保存継承するための支援と、仕組みを考えていく。 ・中央公園は市民交流の場として整備をしているため、中山道を含めた市民の賑わい創出の仕組みとして、市民がマルシェ等のイベントを開催しやすくなるよう備品の貸出をはじめとした市民交流を促進していく体制を整えていく。 			

第2期恵那市歴史的風致維持向上計画中間評価(案) パブリックコメントの結果について

募集期間

令和7年4月1日(火曜日)～令和7年4月 30 日(水曜日)

結果

意見なし

今後の動き

資料 2-1 の内容で中部地方整備局に提出いたします。